



# 『どうなる!?子ども・子育て支援新制度』 一緒に『保育園や幼稚園』など子どもたちをとりまく環境について考えてみませんか?

シンポジウムにご参加下さい

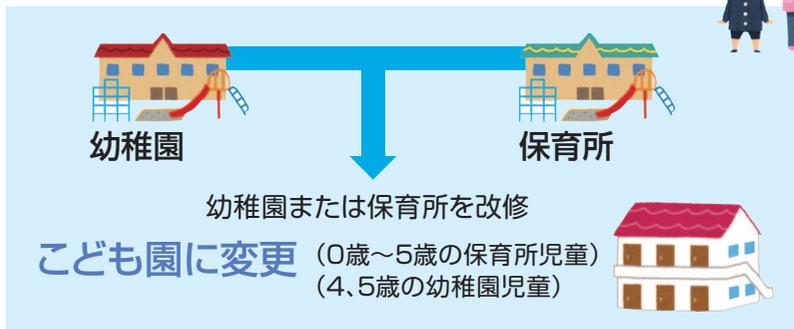
日本共産党吹田市議団(8名)は、4月20日の子ども・子育て新システムを考えるシンポジウムを開催します。お気軽にご参加いただきますよう呼びかけます。

## ● 子ども・子育て支援新制度とは

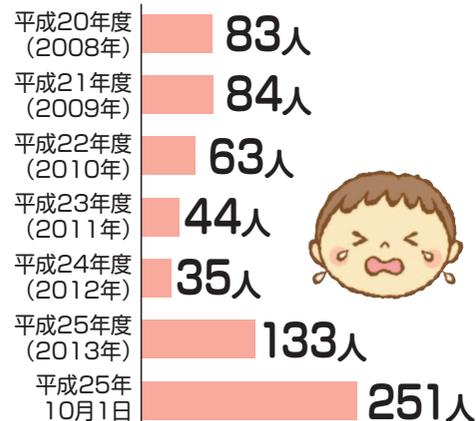
「新制度」は、2012年8月に消費税増税法とセットで成立した子ども・子育てに関わる3つの法律の総称です。現在、国は2015年4月の本格施行に向け「子ども・子育て会議」で具体的な内容の検討を進めています。  
2014年2月末に行われた国の子ども・子育て会議基準検討

部会では「給食費の実費徴収の検討」などの保護者負担も検討されています。  
吹田市でも昨年に子ども・子育て審議会が設置され、子育てニーズ調査などを実施し市の子ども・子育て支援計画策定に向けて審議されています。

## ● 幼保一体化施設『こども園』って何?



## ● 吹田市の待機児童は5年間で…



2012年には35名まで解消できていましたが、2013年には3倍を超える数に増えています。  
新しいマンションの建設など子育て世代の流入とともに、男女ともに非正規雇用が増加し、給料が低く「働かなければやっていけない」という社会情勢も待機児童が増えている原因の一つであると思います。

## ● 吹田が「子育てしやすい」と言われてきたのは…?



保育園では公立も私立も吹田の子どもたちには、できるだけ同じ条件で保育が受けられるようにしてきました。保育所に通う子どもたちだけでなく、地域の子育て支援センターをはじめ、公私で協力をして実施

保育や障害児保育の拡充、病児・病後児保育、一時預かり保育、幼稚園の就園助成、幼稚園での預かり保育などの施策も充実させてきました。とくに障害児保育は、乳児健診と連携をして、親子教室の実施、障害児保育制度の充実などの療育システムも市の責任で充実をさせています。  
また、公立保育園には全園に看護師を配置しており、先天性の病気やアレルギーの対応なども含め、とくに乳幼児には安心できるものです。このことを受けて「私立でも同じように配置ができるように」と充実させていくことが求められているところです。

か所を広げてきました。そして幼稚園では公立の幼稚園や私立の幼稚園でも配慮のいる子どもの受け入れ、預かり保育など、どちらも保護者のニーズに応える努力が積み重ねられてきています。  
また、転勤などで子育て世帯が引っ越しをしてくることも多く、幼稚園の利用者が多いのも吹田市の特徴です。  
保育料の第2子軽減、地域子育て支援事業の実施、延長

まだまだ課題はありますが、保育園も幼稚園も公私が「子どもたちのために」と協力をして充実をさせてきたのが吹田の保育・子育て施策の歴史です。

## ● 保育施設での死亡事故(厚生労働省 発表)

保育中の死亡事故も多数報告されています。厚生労働省に提出されている事故報告の保育施設での死亡事故数は、2013年(1月から12月)は19名、うち認可保育所は4名、認可外保育所は15名と3倍以上も認可外の方が多くなっています。調査対象の施設数は、認可保育所が2万4038か所、認可外保育所が7739か所ですから、事故の発生割合では認可外が約12倍になっています。

る計画の策定を求めました。しかし事故の発生の原因ともなっている施設の設置基準や保育士の配置基準について、特に19人以下の施設は「保育士は1/2以上」となっています。新制度では『質の高い教育・保育を実施する』といっていますが、安易な規制緩和によって、数字上、待機児童が解消されたとしても、すべての子どもたちの十分な発達保障を可能とする保育環境をつくることになるのか、子どもたちの命と安全を守れるのかというところを真剣に考えなければいけないのではないのでしょうか?

とくに施設内での睡眠中に多く、厚生労働省の注意では「子ども1人1人を確実に観察すること」とされています。これは認可外保育所には「保育士資格を有すること」「子どもにたいしての保育士の配置」「保育室の面積要件」など明確な基準が示されておらず、国が安易に規制緩和を進めてきたことに原因があるのではないのでしょうか?

国は2013年4月に待機児童が2万2741人と発表し、待機児童が50人以上の自治体に新制度の前倒しで「待機児童解消加速化プラン」として「小規模保育事業」などを実施す

認可保育所	4件
認可外保育所	15件
計	19件

	認可保育所	認可外保育所
睡眠中	4名	12名
その他	0名	3名